

自己点検・自己評価表（令和2年度）

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神である「私たちの学ぶ技術は、芸術であり、科学であり、職業でもある」を基盤にして「心ある、そして考える医療人を育てる」という教育理念のもと、学生一人ひとりの個性を大切に、対象となる人々に寄り添い相手を慮る（おもんばかり）心を育み、また、常に多角的な視点から思慮深く考え、共創の心をもって医療を実践できる能力を育てる。

目標を達成するために、生命の尊厳と個々の人格の尊重を基盤とした豊かな感性と幅広い教養を身に付けた「人間性の教育」、理論的思考・深い洞察力と判断力により、主体的・創造的に医療を実践できる「専門性の教育」、地域の保健ニーズを理解し、保健医療福祉チームの一員として、組織的に支援できる「社会性の教育」、学問への探求心とその向上・発展に貢献できる「向上性の教育」に注力し教育を実践する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1) 経営の安定化を図る

- (1) 経費削減に向けての職員の意識改革を図る
- (2) 学生募集の見直し（全学科定員充足）
- (3) 退学者予防の実現（退学率低減プロジェクトチームの復活）
- (4) 学科再編に向けての準備を開始する（看護学科三年課程の設置）

2) 自己点検評価の再実施に向けて教育活動の再構築を図る

- (1) 自己点検の再開を目指す
- (2) 人事評価制度の再開
- (3) コンプライアンスの徹底
- (4) 教育の質的向上のための各小委員会活動の復活

3. 評価項目の達成、取り組み状況

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念・目的・育成人材像は定められているか。	④	3	2	1
育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	③	2	1
理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	③	2	1
理念等、将来構想を教職員に周知しているか	④	3	2	1

①課題

- ・ 関連する業界等のニーズを把握するための教育課程編成委員会を再開する必要がある
- ・ 看護学科（3年課程）においても、カリキュラム構築の際に外部機関の意見を聴取する体制が必要である

②今後の改善方策

- ・ 教育課程編成委員会を3学科（リハビリテーション学科、東洋医療総合学科、看護学科）で実施する

③特記事項

- ・ こひつじ会グループと事業提携することにより、法人名が「衛生学園」となった
- ・ 理念等将来構想の周知に関連して、令和3年度より事業計画書を策定することとなった

2. 学校運営

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念に沿った運営方針を定めているか	4	③	2	1
理念等を達成するための事業計画を定めているか	④	3	2	1
運営方針、事業計画を教職員に周知しているか	④	3	2	1
設置法人は組織運営を適切に行っているか	④	3	2	1
学校運営のための組織を整備しているか	④	3	2	1
人事・給与に関する制度を整備しているか	④	3	2	1
意思決定システムを整備しているか	④	3	2	1
情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	4	③	2	1

①課 題

- ・新理事長からの長期ビジョンや中期計画の方向性は示されたものの、学校単位としてその達成に向けた指針となる明確な運営方針については明示できていない
- ・学生個人データなど業務上必要となる情報の共有ができるようなシステムが構築されていない

②今後の改善方策

- ・法人としての理念を受け、その達成に向けて学校としての運営方針を明確に示す
- ・学籍データのクラウド管理について検討し、実現可能性について検討する

③特記事項

- ・今年度より、こひつじ会グループと事業提携することにより、法人名、理事定数、評議員定数を変更し、そのメンバーについても刷新した
- ・法人運営をより円滑に実施していくため、新たに経営会議を実施することとなった

3. 教育活動

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	④	3	2	1
学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	④	3	2	1
教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	④	3	2	1
教育課程について、外部の意見を反映しているか	4	3	②	1
キャリア教育を実施しているか	④	3	2	1
授業評価を実施しているか	④	3	2	1
成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	④	3	2	1
資格・免許取得の指導体制はあるか	④	3	2	1
資格・要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
教員の資質向上への取組みを行っているか	4	③	2	1
教員の組織体制を整備しているか	4	③	2	1

①課題

- ・教育課程編成委員会の再開
- ・教員の育成目標並びに育成計画を明確に示せていない。
- ・教育力向上小委員会の活動は復活したものの、授業評価（振り返りシート）の結果の活用や内部研修システムの構築などについてはできていない。
- ・教務部長の職に人員を配置できていない。

②今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を3学科（リハビリテーション学科、東洋医療総合学科、看護学科）で実施する
- ・教員の育成目標を明確に示す。
- ・学校として教職員の研修計画立案についての方策を検討する。

③特記事項

- ・ 外部講師の協力を得て、授業動画配信に関する研修を実施した

4. 学修成果

評価項目	4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切			
	就職率の向上が図られているか	4	③	2
資格・免許の取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
卒業生の社会的評価を把握しているか	4	3	②	1

①課 題

- ・ 卒業生および卒業生の就職先へのアンケートを実施できていない

②今後の改善方策

- ・ 卒業生アンケートの再開する
- ・ 卒業生の就職先へのアンケートを再開する

③特記事項

- ・ コロナの影響により、従前の形式での就職ガイダンスが実施できなかった
- ・ 東洋医療総合学科では動画配信での就職ガイダンスを実施した
- ・ 専門分野就職率はリハビリテーション学科は 83.3%、東洋医療総合学科 1 部は 100%、2 部は 90.9%、看護学科二年課程は 100%であった。
- ・ 国家試験の合格率はリハビリテーション学科 84.1% (44 名中 37 名)、東洋医療総合学科 1 部はあん摩マッサージ指圧師 100% (21 名中 21 名)、はり師 95.2% (21 名中 20 名)、きゅう師 95.2% (21 名中 20 名)、東洋医療総合学科 2 部はあん摩マッサージ指圧師 100% (18 名中 18 名)、はり師 100% (18 名中 18 名)、きゅう師 100% (18 名中 18 名)、看護学科二年課程は 93.3% (30 名中 28 名)、看護学科二年課程 (通信制) は 84.7% (268 名中 227 名)

5. 学生支援

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
学生相談に関する体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
学生の健康管理を行う体制を整備しているか	④	3	2	1
地方からの入学生に対する生活環境支援体制を整備しているか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	③	2	1
保護者との連携体制を構築しているか	4	③	2	1
卒業生への支援体制を整備しているか	4	③	2	1
産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	4	③	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	4	③	2	1

①課題

- ・ 学生個々の就職に関する情報を、教務と事務とが共有できる環境づくり。
- ・ 学生面談室の環境がプライバシーに配慮した設備となっていない。
- ・ 全学生を対象とした学校独自の経済的支援体制（奨学金制度）が確立できていない。
- ・ 課外活動に対する学生の要望があった場合の対応等について不明確である。
- ・ 学校として同窓会との連携体制が不十分である。

②今後の改善方策

- ・ 履歴書添削や模擬面接などの指導内容を教務と事務とで共有する機会を設ける。
- ・ 同窓会組織の一本化を図る。

③特記事項

- ・ 同窓会組織の一本化を図るため、各学科の担当者を選出した。
- ・ 退学者低減プロジェクトチームは責任者を変更し、3回のミーティングを実施した。

6. 教育環境

評価項目	4:適切	3:ほぼ適切	2:やや不適切	1:不適切
教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	④	3	2	1
学外実習の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
海外研修の実施体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1
学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	④	3	2	1

①課題

- ・美化の観点から施設・設備を見直し改善する必要がある。

②今後の改善方策

- ・美化の観点に基づく施設改善計画を立案し、実行していく。

③特記事項

- ・動画配信授業作成等に伴い下記のことを実施した
 - a. 動画配信プラットフォームを新たに契約（クラウドリーム）
 - b. 高性能ノートPCを10台購入
 - c. 校内全館Wi-Fi接続環境の整備
- ・コロナの影響により、学外実習は軒並み中止となったため、学内での実習となった。
- ・コロナの影響により、海外研修（中国、米国）は中止となった
- ・コロナ感染防止対策として下記のことを実施した
 - a. 学校入り口に温度センサーの設置
 - b. 手指消毒用アルコールの各所への設置
 - c. 全在校生ならびに来校した入学希望者にフェイスシールドを配布
 - d. 1階窓口、2階窓口、面談室、各教室に透明アクリル板を設置した

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4	③	2	1
学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4	③	2	1
入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	④	3	2	1
入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	③	2	1
経費内容に対応し、学納金を算定しているか	④	3	2	1
入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱いを行っているか	④	3	2	1

①課 題

- ・ 継続して定員確保に向けた募集活動の実施。
- ・ 東洋医療総合学科 2 部において、専門実践教育訓練給付金の対象から外れたことによる、給付金対象者外の受験者（大学・専門学校・高校新卒者等）への積極的広報の実施。

②今後の改善方策

- ・ 入学前教育小委員会において、入学前教育の充実を図る。

③特記事項

- ・ コロナの影響により高校ガイダンスが軒並み中止となり、また、高校訪問の実施もほとんど行うことができなかった。
- ・ オンラインでのイベント（体験入学、個別相談等）を新たに構築した。
- ・ 東洋医療総合学科 1 部・2 部において定員を満たすことができなかった。

8. 財 務

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	3	②	1
学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	④	3	2	1
教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	③	2	1
予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4	③	2	1
私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	④	3	2	1
私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	③	2	1

①課 題

- ・看護学科二年課程の課程変更に伴い、2021年度、2022年度は学生生徒納付金収入が減額する。
- ・全学科での定員充足や退学者の低減が実現できていない。
- ・各学科・部署毎の予算の執行状況を定期的に確認できていない。
- ・ガイドライン（専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドライン）に基づく項目での情報公開ができていない。（事業計画書、貸借対照表、監査報告書など）

②今後の改善方策

- ・学校として、各学科・部署毎の予算執行状況の管理体制を整える。
- ・財務状況に関する項目での情報公開を行う体制を整備する。

③特記事項

- ・法人の体制が変わったことにより、経営会議にて法人全体・学校別の月次での予算管理を実行するようになった

9. 法令等の遵守

評価項目	4: 適切 やや不適切	3: ほぼ適切	2:	1: 不適切
法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	④	3	2	1
学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	④	3	2	1
自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	3	②	1
自己評価結果を公表しているか	4	3	2	①
学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	3	2	①
学校関係者評価結果を公表しているか	4	3	2	①
教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	③	2	1

①課 題

- ・前法人の際の諸問題解決のため、自己点検評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会等の活動が停止または中止となってしてしまったため、再開する必要がある

②今後の改善方策

- ・自己点検評価を学内全体で再開する体制を構築する。
- ・学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会を2022年度より再開できるように取組む。
- ・情報公開ガイドラインに基づく情報公開を進めるとともに、学内でのチェック体制を明確にする。

③特記事項

- ・学生個人データの取扱いについてプロジェクトチームの活動を継続し、昨年度定めたルールを今年度より運用し、更にその問題点をもとに、新たなルール・管理体制の構築に向けて取組んだ。
- ・自己点検評価については小委員会を設け、実施した。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	③	2	1

①課題

- ・学生ボランティアに関する担当窓口が不明確であり、周知徹底されていない。

②今後の改善方策

- ・学生ボランティアに関する担当窓口を明確にし、周知徹底を図る。

③特記事項

- ・コロナの影響により、おおた区民大学講座の開講、おおたユニバーサル駅伝が中止となったため、地域貢献の活動ができなかった。

11. 国際交流

評価項目	4: 適切	3: ほぼ適切	2: やや不適切	1: 不適切
国際交流に取り組んでいるか	4	3	2	①

①課題

- ・法人の組織体制刷新に伴い、新たな国際交流の在り方を構築する必要がある

②今後の改善方策

- ・法人として外国人材の育成を実施していくことも踏まえ、新たな国際交流について検討する。

③特記事項

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1) 令和2年度重点目標に対する取組みと評価結果

今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、教育体制の変更（オンライン授業の構築、3密を避けての対面授業の構築など）、学内における感染拡大防止対策（在宅勤務、新規設備など）の対応に追われ、重点目標として掲げていた各項目への取組みは不十分な結果となりました。

1) 経営の安定化を図る

(1) 経費削減に向けての職員の意識改革を図る

- ・経費削減として、①警備員の勤務時間短縮 ②駐車場契約の解約 を実施した
- ・経費削減に向けての職員の意識改革を図るための具体的活動は実施できなかった

(2) 学生募集の見直し（全学科定員充足）

- ・東洋医療総合学科2部での定員充足ができなかった

(3) 退学者予防の実現（退学率低減プロジェクトチームの復活）

- ・プロジェクトチームの責任者を変更し、3回のミーティングを実施した
- ・本年度の退学者数（除籍者2名含む）は39名（4/2現在）であった
- ・退学理由の約50%は学業不良であり、新型コロナ感染症に関連する要因は少ないと推察された
- ・学業不良の要因については次年度以降、教育会議（4つの小委員会）に報告し、対応等については打診（委託）することとした

(4) 学科再編に向けての準備を開始する（看護学科三年課程の設置）

- ・令和3年1月に東京都へ課程変更計画書を提出した
- ・令和3年3月に大田区へ学則変更届を提出した

2) 自己点検評価の再実施に向けて教育活動の再構築を図る

(1) 自己点検の再開を目指す

- ・取組みための新たな体制を構築することはできなかった
- ・中期での評価ができなかった

(2) 人事評価制度の再開

- ・後半期において、目標設定面談を再開した。
- ・次年度は法人全体として改定した人事評価制度を実施予定。

(3) コンプライアンスの徹底

- ・コンプライアンスの徹底を図るための具体的活動は実施できなかった。
- ・個人情報保護についてはプロジェクトチームの活動を通じ、職員の意識を傾けることができた。

(4) 教育の質的向上のための各小委員会活動の復活

- ・年度の後半より、教育力向上小委員会、国家試験対策小委員会、初年次教育小委員会、入学時教育小委員会の各活動を再開した。

5. 令和3年度 重点目標

1) コロナ禍における学習環境と就業環境を整える

- (1) 学生の学習環境を整える
- (2) 職員の働きやすい環境の整備を実施する

2) 経営の安定化を図る

- (1) 学生募集の見直し
特に看護学科、東洋医療総合学科2部
- (2) 退学者予防の実現
退学者低減プロジェクトチームの継続

3) 自己点検評価の再実施に向けて教育活動の再構築を図る

- (1) 自己点検評価、学校関係者評価、教育課程編成委員会の再開を目指す
- (2) 人事評価制度の再開及び確立
- (3) 教育の質的向上のために各小委員会活動の継続